

2025

3

No. 743

國學院大學学報

「卒業する人々に」
櫻の花ちりぐにしも
わかれ行く 遠きひとり
と 君もなりなむ
『春のことぶれ』
釈 道空

国学院大学 令和7年3月20日(木・祝) 定期号(毎月20日発行) 1部20円
[発行] 国学院大学 [編集] 総合企画部広報課 〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目10-28 [電話] 03(5466)0130 [FAX] 03(5466)0528

祭 儀 ■ 入学奉告祭 4月1日(火) 午前10時 仮殿

誇りと感謝を胸に
そして 未来へ

国学院大学では、令和6年度(133期生)に大学院81人(博士前期課程71人、博士後期課程10人)が修了を迎え、8人が所定単位修得退学となった。5学部では2283人(文学部766人、経済学部517人、法学部468人、神道文化学部192人、人間開発学部340人)9月卒業生を含む、専攻科では18人、別科では5人の合計2306人が学びを修め、それぞれの未来へ向かい本学を旅立った(人数は3月12日時点)。

大学院学位記授与式は3月22日、渋谷キャンパス常磐松ホールで行われた。5学部と専攻科・別科の卒業式は同23日にグランドプリンスホテル新高輪「飛天」(東京都港区)で挙行された。卒業証書、学位記、修了証書の各授与式は渋谷キャンパス・たまプラーザキャンパスでそれぞれ行われた。卒業生たちは、恩師や友人らと集い、思い出話などに花を咲かせ、学び舎を後にした。

「旅立ちの春」にあたり、針本正行学長はじめ機関長が「はなむけの言葉」を贈り、133期生の大きな活躍に期待の念を込めた。

一方、3月末で定年退職を迎える教職員は21人。本学キャンパスでの思い出を振り返り、「惜別の言葉」を寄せた。

新たな旅立ちを祝す

学長 針本正行



卒業おめでとうございます。所定の課程を修めて新たな世界へ旅立つ皆さんを心からお祝いいたします。

近年の現代社会では、新型コロナウイルス感染症のまん延、生成AIの急速な進化などにより、人間関係の構築、機械に代替されない人間の在り方が問われています。大学の学びにおいても、情報機器の利便性を享受しつつ、学友との学び合いの大切さも再認識しました。また、それぞれの学術分野において、AIを活用しながらも、AIの回答について、自ら集めた資料をもとに検証し、自らの思考を深める主体的な学びの意義も実感しま

した。皆さんは、今までにない知の創造の過程において、自ら、研究史を振り返り、これまでの研究成果を問い直し、当該の課題解決に挑み、時には、AIの回答にも、AIはどうしてこの回答を得たのか、その回答のもとになった根拠資料は何か、とAIに繰り返し問いかけるといった経験もしました。さらに、それらの探究過程を学友と共有することにより、課題の本質に迫り、課題解決の端緒も得ました。急速に変貌する現代社会において、皆さん一人一人が「知の創造」の固有のあり方を醸成し、豊穡で光り輝く未来の自己実現の道を紡ぎ出していたのです。

皆さんは、学生生活で、不断に、これまでの学びを問い直し、次の学びの準備をしているのです。皆さんが選り取った新たな道では、これまでに経験したことのない課題が提起されてきます。それは、大学の学びの中で醸成されてきた能力が顕現し発揮される契機となるものです。新たな道への旅立ちには、皆さんの内にあるさまざまな能力が立ち現れる始まりなのです。

卒業後も、皆さん一人一人が選り取った道で自己実現を果たされることを期待します。

みはるかすもの

別れと旅立ちの季節だ。さるプロレスラーは「迷わず行けよ、行けばわかるさ」と人々を鼓舞した。その力強さに敬意を表しつつ、迷うことの豊かさも少し擁護したい。▼当代きつての文筆家の一人であり、歴史に根差しつつ現在と未来を見つめる思慮深い筆致で知られるレベッカ・ソルニットに、「迷うことについて」(東辻賢治郎訳、左右社)という著作がある▼自身の経験や、古今東西の知見を広く探し求めながら「迷うこと。官能に満ちた降伏。抱かれて身を委ねること。世界のなかに紛れてしまうこと」の可能性について思索を巡らせる一冊だ。「人は迷ってしまうのではなく、自ら迷う、自らを見失う」と表現されるとき、私

たちが迷うことに普段抱くネガティブなイメージは反転する▼「アイデアというものは、新しいものもあるが、たいていの場合はずっとそこにあったものの、部屋の真ん中に鎮座していた謎、鏡のなかの秘密を見出すことにすぎない」という一節は、反自己啓発的でありながら、明日からさらに迷うための指針となる。絵画に描かれてきた遠方の「青」に触れながら、ソルニットは語る。「わたしたちと望むものとの間の憧憬の青で満たしているのはまさにその隔たりであることも多い。ほんのすこし目先を変えてその感覚そのものを大事にすることができないだろうか」▼だから今は、こう別れの言葉を述べたい。「迷いながら行けよ。行けば、何かすこしわかるさ。そしてまた、共に迷おう」と。

卒業おめでとう

卒業おめでとう

若者が豊かになる社会を目指して

大学院委員長 佐藤 長門



国学院大学大学院博士前期課程修了者71名、後期課程所定単位修得者8名、そして博士号取得者10名の皆さん、おめでとうございます。令和6年の日本は、元日に能登半島で震度7の巨大地震が発生し、9月には同地に集中豪雨が襲ったことで、復旧復興は進みませんでした。全国的にみると、11月に30℃以上の真夏日が出るなど異常気象が続き、また猛暑の影響か、8月ごろからコメが品薄状態となり、米価が上昇して「令和の米騒動」という報道もなされました。ようやくコロナ禍の呪縛から解放されたというのに、受難ばかりが目立つ一年でした。世界に目を転じると、11月のア

メリカ大統領選挙では共和党のドナルド・トランプが再選を果たし、早速グリーンランドやパナマ運河の領有を主張し、関税によって「アメリカ・ファースト」を実現しようとしています。彼はウクライナ戦争やガザ攻撃に対しては、停戦に向けた動きを加速していますが、それが第二の「宥和政策（英・チェンバレン政権による対ナチス弱腰外交）」にならないことを、願ってやみません。

令和7年は、昭和元年から数えて100年にあたります。そのうち直近の30年間は、日本経済が停滞していた時期でした。ようやく、初任給を30万円以上にする会社が出たというニュースが流れ

ただ「生き抜く」のみ

文学部長 矢部 健太郎



133期卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうでございます。4年間務めた文学部長最後の仕事として、心からのお祝いと、今後の人生に向けた激励の言葉を贈りたいと思います。

私は本学103期、ちょうど30年前に卒業しました。卒業式当日は晴れやかな日ではありませんでしたが、少し違っていました。「卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうござい

た。命に別状はありませんでしたが、いつでも死と隣り合わせ……ということを改めて感じたのです。私は、16・18・20・22歳の時に、高校の同級生を病氣と事故で亡くしました。その辛い経験は、私の死生観形成に大きく影響しています。彼らの分まで生き抜こう、と皆さんのこの先の長い人生、確

社会を利用するために継続的な学びを

経済学部長 星野 広和



「ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。皆さんは、コロナ禍での入学を経験されました。入学当初、未曾有の疫病によってオンライン授業や三密の回避を余儀なくされ、対面的な接触やコミュニケーションは薄れ、充実した学生生活とは必ずしも言えなかったことでしょう。

英語で卒業式は commencement と言いますが、commence の語源は古フランス語の「始める、開始する」という意味です。学びに卒業はないのです。卒業を契機に新たな学びのスタートを切ってください。

現代社会を見渡せば、感染症のまん延だけでなく、自然災害の増加、紛争の発生、少子高齢化など数多くの解決困難な諸問題がいまだに発生し続けています。そのような問題解決に対して、経済学や経営学を含む社会科学という学問に大きな期待が寄せられています。特に、日本経済や世界経済の再成長および企業業績の回復には、経済学や経営学の貢献が必要不可欠

です。皆さん一人一人の継続的な学びの努力が社会を利用のです。皆さんの継続的な学びが社会的な課題解決の糸口になることを心より期待します。

最後に、健康にはくれぐれも留意し、充実した社会人生活を送られることを心よりお祈りします。ご卒業おめでとうございました。

新たな世代の旗手として

法学部長 荻田 真司



「ご卒業おめでとうでございます。皆さんは、長きにわたる学修の時を終えて、いよいよ実社会へと乗り出していくことになりました。現実の世界では、既存のさまざまな枠組が動揺を来し、崩壊を始めています。皆さんが歩みを進める社会は、これまでの知識や価値観が通用しない、その意味では予測の難しい社会になるでしょう。

意味では、これまでの知識が通用しない時代こそ、人間の本当の知性が試される時である、と思います。皆さんの世代は、デジタル・ネ

ィティブの世代であり、地球環境の変動の直接の影響を受ける最初の世代であり、ポスト・コロナの第1世代でもあります。過去とは大きく異なる環境の下で成長し学修してきたという点で、皆さんの世代は、これまでの常識や価値観から自由になることがより容易であると思います。その意味で、皆さんは、この予測困難な世界から脱却する、新たな価値観を生み出す可能性を持っています。

心のふるさとを確かめよう

神道文化学部長 黒崎 浩行



「ご卒業を心よりお祝い申し上げます。皆さんの在学中、世界ではさまざまな出来事がありました。新型コロナウイルス感染症の影響も大きく、また各地で戦争、人道危機が起きました。日本では、令和6年1月1日に石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震が起き、甚大な被害をもたらしました。

私たちはまだ現地を訪れることができていませんが、先日、「風が灯るころ」奥能登、珠洲の記憶」（有馬尚史監督）というドキュメンタリー映画を見る機会がありました。能登地方では令和5年5月5日にもマグニチュード6.5の地震があり、その復興に向かおうとする中、珠洲市の各地区で行われたキリコ祭りをとらえた映画です。神社の祭典で奉納される雅楽の練習風景から始まり、ラスト近くでは令和6年1月1日の地震の数日後に笛や太鼓を鳴らす人々たちを映すという、循環構造になっているのが印象的な作品でした。

監督によると、過疎化、高齢化が進んでいる地域でありながらも、進学や仕事のために地域を出ていった若者たちが、祭りの日程が近づく毎週末に帰ってきて準備を行うとのことでした。離れていても思いを寄せることのできる祭りの存在が、人々を支えていると言えそうです。

皆さんご卒業おめでとうございます。無事に大学を卒業し、これから人生の新しいステージに立つ皆さんに心よりお祝いを申し上げます。

入学以来さまざまな場所でお話ししてきたように、本学部の名称である「人間開発」とは、人間一人一人が持つ個性や資質を伸ばし、潜在能力や才能を引き出すことを意味しています。そしてこの言葉は、大学における学びとさまざまな実践を通して、皆さんの力を花開かせるとともに、こうした力を持つ教員や指導者として皆さん自身に成長してもらいたいという願いが込められています。これまでは学生として「人間開発」

観を受け入れ柔軟に変わっていきける寛容さと謙虚さが求められますが、移ろいゆくものに流されてやがては自分自身を失わないため、主体性を保持することも重要です。大学で得た学びをどのように総括するかは、皆さんそれぞれですが、社会に出て学ぶ姿勢を失わず、自分を磨き続けてください。最後に、皆さんの人生に幸多からんことを、心より祈ります。

自ら主体となつて「人間開発」を

人間開発学部長 太田 直之



皆さんご卒業おめでとうございます。無事に大学を卒業し、これから人生の新しいステージに立つ皆さんに心よりお祝いを申し上げます。

さて、現代はしばしば大きな変革の時代と言われます。こうした社会を生き抜いていくためには、変化に対応するのはもちろん大切ですが、変化の渦に流されないため、身の内なるものを再確認することも重要となります。その時、国学院大学の建学の精神たる神道精神に基づいた理念である「主体性を保持した寛容性と謙虚さ」という言葉をぜひ思い出してください。変化に対応するにはさまざまな価値

観を受け入れ柔軟に変わっていきける寛容さと謙虚さが求められますが、移ろいゆくものに流されてやがては自分自身を失わないため、主体性を保持することも重要です。大学で得た学びをどのように総括するかは、皆さんそれぞれですが、社会に出て学ぶ姿勢を失わず、自分を磨き続けてください。最後に、皆さんの人生に幸多からんことを、心より祈ります。

「祈ること」の大切さを知る

専攻科長 松本 久史



専攻科の皆さん、修了おめでとうございます。昨年4月には、期待と不安が入り交じった気持ちで入学されたのだと思います。しかし、日々の学修や実習を通じて研鑽を積み、クラスメート同士助け合いながら過ごしていく中で、次第に自信が湧いてきたのではないのでしょうか。国学を専攻している私からは、手前みそと言われるかもしれないですが、皆さんは今、神職としてのスタートラインに立つたと同時に、「国学」も修めたのだ、という自負も持ってほしいと考えております。皆さんが受講した神道に関する古典や有職故実、歴史は、神職としての必須のものであることは言うまでもありません。

今、日本社会は急速な変化の時を迎えています。10年前の平成26（2014）年には約100万人だった出生数も令和6（2024）年には約72万人と激減しています。『古事記』では、一日に千人を殺すと言ったイザナミノミコトに対し、千五百の産屋を建てようと言ったイザナノミコトの誓いはどうなってしまったのか、と疑わざるを得ません。短期的にはこの傾向を覆すことは難しいように思われます。しかし、本居宣長は

「古事記伝」において「凶悪はあれども、終に吉善に勝事あたわざる理」があるとも述べています。神道の「マツリ」の精神は予祝にあり、祝詞はそれを体現しているともいえるでしょう。人々の安寧を一心に祈ることの大切さを理解できること、この一年で皆さんが身に付けた大きな財産であると思います。今後のご活躍を期待しております。

「感謝」と「恩親」の気持ちをお忘れずに

また、『日本書紀』巻第一神代上

「古事記伝」において「凶悪はあれども、終に吉善に勝事あたわざる理」があるとも述べています。神道の「マツリ」の精神は予祝にあり、祝詞はそれを体現しているともいえるでしょう。人々の安寧を一心に祈ることの大切さを理解できること、この一年で皆さんが身に付けた大きな財産であると思います。今後のご活躍を期待しております。

「感謝」と「恩親」の気持ちをお忘れずに

別科長 藤本 頼生



修了を心よりお祝い申し上げます。皆さんが別科での学びとともに神社実習生として、社頭にて体験、苦勞した一つ一つの出来事は、今後の神明奉仕のつみならず、人生においてとても大いに糧となることでしょう。修了の喜びを胸に、2年間の実習等の日々に誇りを持ち、今後の務めに役立てていただきたいと思っています。

さて、近世前期に伊勢神道を再興した伊勢神宮（豊受大神宮）の権禰宣、出口延住は「神道とは何か」と問われた際に「なにとなくただありがたきこそ、伊勢の内外的神の道なれ」と述べて「有り難い」という感謝の心を持つことで「教えた」と伝えられています。

また、『日本書紀』巻第一神代上

修了を心よりお祝い申し上げます。皆さんが別科での学びとともに神社実習生として、社頭にて体験、苦勞した一つ一つの出来事は、今後の神明奉仕のつみならず、人生においてとても大いに糧となることでしょう。修了の喜びを胸に、2年間の実習等の日々に誇りを持ち、今後の務めに役立てていただきたいと思っています。

さて、近世前期に伊勢神道を再興した伊勢神宮（豊受大神宮）の権禰宣、出口延住は「神道とは何か」と問われた際に「なにとなくただありがたきこそ、伊勢の内外的神の道なれ」と述べて「有り難い」という感謝の心を持つことで「教えた」と伝えられています。

また、『日本書紀』巻第一神代上

キャンパスと別れの時

Time to say goodbye to campus

この3月をもって本学を去る方々の中から、定年退職を迎える10人の教職員に、学生、教職員への「惜別の言葉」を寄せてもらった。

短い間の在職でしたが、特にキャリアサポート課では、就職の質を上げて優良な入学者の確保に貢献し、大学のステータスを向上させるという目標のもと、民間企業に対して、徹底した企業訪問を行いました。その成果として『國學院大學企業大研究』の発行や、「企業セミナー」などさまざまなイベントを実施することができ、学生の就職先企業を充実させることができました。

また、公務員や公認会計士ではK-PLASのシステムを作り、苦戦をしながらも国家総合職内定者や公認会計士合格者をコンスタントに輩出できるまでになりました。また、学生生活課においても強化部会の支援や奨学金業務の見直しなどができました。これらの成果が出せたのは、一緒に働いたメンバーがモチベーション高く楽しみながら目標に向かって努力したからだと思っています。でも目指すべき目標はまだまだ先にあります。今後もその目標に向けて努力していければもっと素晴らしい成果が出ると思います。皆さん頑張らしましょう！



法人参事 学生生活キャリアサポート担当 藤形 正俊

退職を控えたある日、研究室の窓の外に目をやると、遠くに東京タワー、六本木ヒルズが見えた。東京タワーは当初はその全貌を見ることができたが、今では手前のビルが下半分を隠してしまっている。平成17(2005)年4月に国学院大学法学部に奉職してから20年。社会の変化は、街の風景にとどまらない。専攻する家族法の分野でも、家族(親)の変容著しく、ゼミや講義での学生たちとの議論を通してパラダイムシフトを実感することも度々あった。とりわけ、ここ数年は、コロナ禍あり、家族法の五月雨式改正ありで、講義のやり方、教材づくりには苦労したが、同時にチャレンジングでもあった。微力な私が定年退職を無事に迎えることができたのは、ひとえに大学、同僚の教職員の皆さまのおかげである。委員会、出張等さまざまな場面でご助力くださった方々にこの場を借りて心より御礼申上げたい。そして、これからも、恩師が常々おっしゃっていた「生涯学徒」であり続けたいと思う。

皆さまどうぞお元気で。国学院大学のますますの発展を祈念しております。



法学部教授 門広 乃里子

教職員人事

【退職】(3月12日現在)
◎定年
 ◆文学部◇教授▽新倉真矢子▽吉田敏弘◇教授(特別専任)▽菊地康人▽澤崎久和
 ◆経済学部◇教授▽橋元秀一◇教授(特別専任)▽佐藤謙一
 ◆法学部◇教授▽門広乃里子
 ◆神道文化学部◇教授▽石井研士
 ◆人間開発学部◇教授▽田沼茂紀
 ◆法人事務局◇専任▽大野靖仁(参事)▽藤形正俊(参事)
◎自己都合
 ◆人間開発学部◇教授▽植原吉朗▽安野功
 ◆観光まちづくり学部◇助手▽中川雄大
 ◆大学事務局◇専任▽相川環(学生事務部キャリアサポート課書記補)▽天野凌(総合企画部広報課書記)▽小川由樹子(国際交流事務部国際交流課書記)
◎任期満了
 ◆研究開発推進機構◇助教▽吉永博彰
◎期間満了
 ◆内部監査室◇嘱託▽廣瀬清
 ◆大学事務局◇嘱託▽稲田惟広(学生事務部学生生活課学生相談室)▽柴原美智子(総務部人事課)

以上、令和7年3月31日付

読者アンケート
 本紙へのご感想をお待ちしています

『國學院大學学報』では、読者の皆さまからのご意見・ご感想を募集しています。今後の紙面作りの参考にさせていただきますので、以下(二次元コード)のフォームから、ぜひご協力をお願いいたします。昨年度のアンケート結果は、学報バックナンバーページ(https://www.kokugakuin.ac.jp/about/efforts/p20)でご確認ください。
 図▶ 広報課 (☎03・5466・0130)

二昔も前の話です。当時、高知大学教育学部に勤務していた筆者に頭の上がらない先輩から突然本学移籍のお誘いをいただきました。それもおまけ付きで「〇〇大学と国学院大学、両方あるけどどうする?」と、何ともアバウトなお誘いでした。教員養成系学部新設ラッシュだったのです。高知大学でも教授として脂が乗ってきた頃で、大学院生も抱えており迷いました。そうしたら、先輩が「『主体性を保持した寛容性と謙虚さ』という神道精神、君にぴったりだよ」と強引に口説いてくださいました。それは、事実でした。その後の本学勤務を通じて一番実感したこともありました。

あと、もう一つご縁がありました。実母は会津(現在は新潟県編入)の女昔語りで、本学民俗文学研究会・説話研究会の皆さまが学生とともに毎夏採話に来られておりました。そして、冊子や書籍に留めてくださいました。手にする度に今でも本学とのご縁を感じます。我が国学院大学に栄光あれ！



人間開発学部教授 田沼 茂紀

大学4年間は「立野寮」という大学の寮で過ごした。創立100周年を目前にした昭和57(1982)年4月に入職。学生課を皮切りに複数の部署を経験したが、わけても21年間所属した神道研修事務部は、神職資格所持者として使命感を持って仕事に打ち込むことができた部署であった。また、神殿奉斎員として大学神殿で奉仕できたこと、更に神道文化学部の兼任講師として4年生の神社祭祀演習を担当できたことは、私にとって大きな財産であり、神道研修事務部を離れた後も、神職養成の一端に携わる機会を与えていただいたことに深く感謝している。私の拙い講義を履修してくれる学生に、少しでも多くの事を伝えたいと思いながら準備をする時間や彼らと接する時間は、「楽しい」の一言に尽きる。ありがたいことだ。

これまで我を張らずに仕事をしてきたつもりだ。仕事に支障があつてはいけないと思いいやりたい事も控えてきたが、これからは TENT を背負って、思う存分歩いてみたいものだ。



法人参事 法人事務局担当 大野 靖仁

私が文学部史学科に着任して3年目に歴史地理学コースが新設され、野外実習の調査地を探していた頃、岩手県一関市巖美町本寺地区から、幻の骨寺跡を探してほしい、との依頼を受けた。阿部賢治君ら当時の専攻学生と相談し、直ちに調査を開始して以来、30年の長きにわたり、歴史地理学教室は骨寺村での野外実習を継続してきた。この間、景観調査は2007年度でひとまず終了し、骨寺村は史跡・重要文化的景観の冠を得た。以後は田植え・稲刈りの学習田活動や景観保全のための交流事業に軸足を移し、延べ500名を超える学生が骨寺を訪れた。

渋谷でも「史学入門」の授業の一環として、毎年骨寺や京津畑の神楽が披露され、3度の餅つきイベントも開催できた。大都会に生まれ育った学生諸君も、日頃意識することのなかった農山村の地域社会に触れ、そこにさまざまな思いを抱く契機となったならば幸いである。末筆ながら国学院大学のますますの発展を祈り、惜別の辞に代えたい。



文学部教授 吉田 敏弘

平成28(2016)年4月に国学院大学に奉職させていただいてからあつという間でした。三十数年の公務員生活の後に、このような素晴らしい環境のもとで過ごせるとは夢にも思っておりませんでした。もちろん、大学・大学院において、これまでの経験を生かして税法等を理解してもらい、自らも研究をしたいという思いは以前からありました。その意味では夢がかなったわけですが、最初はどうのようにしたら学生によく理解してもらえるかと悩む日々もありました。振り返ると学部授業をはじめ大学院での講義や論文指導などを通じて自らも多くのことを学ぶことができた貴重な時間でもありました。その間、経済学部の先生方をはじめ本学で出会った全ての方々に心から感謝を申し上げます。これからの時代は大変だと言われていますが、このような時代だからこそ「心を定め 希望をもって歩むならば 必ず道はひらけてくる」という松下幸之助の言葉を学生諸君に贈りたいと思います。



経済学部教授 特別専任 佐藤 謙一

前任校を勤め上げた後の5年間お世話になり、このたび退職を迎えました。外国人に対する日本語教育について日本人学生に講じる仕事为主でしたが、日本語教授者にならない学生も興味を持ってくれるように、日本語教授者の目とともに日本語学習者の目でも、また言語学的にも、日本語を見つめ直すことを目指しました。熱心に受講してくれ、理解力も高い学生が大多数でした。国学院は教授陣が立派なことは承知していましたが、事務の方々からも常々大学への「愛」ある仕事ぶりが感じられ、学生諸君も今時こんなにいい学生たちが！と思うような諸君で、絶えずいい大学だなと思いながら過ごせる日々でした。強いて残念な点を挙げると、せっかくのいい学生たちの中で大学院進学者や教職、出版関係等に就く人が少ないことでしょうか。私自身、旧師やお世話になった編集者に本学卒業生が何人もいらっしまったので、この点は残念に思います。あつという間の幸せな5年間でした。ありがとうございました。国学院と、よき学生たちの前途に幸あれ！



文学部教授 特別専任 菊地 康人

国学院大学に着任以来、瞬く間の4年間でした。4年前に入学した学生とともに卒業すると思えば、これは決して短い期間とは言えません。この間、同僚の先生方をはじめ多くの教職員の皆さまには大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。学生、大学院生諸君とは授業以外でも研究会と一緒に唐代の詩や小説を読んだことが大きな収穫でした。振り返れば、学生時代も教員となってからも、ただひたすら古典を読むのが面白くて今日までやって来ました。杜甫や白居易の詩であれ唐代の小説や宋代の詞であれ、また日本漢詩文であれ、さまざまな専門や年齢・所属の方々とともに研究できたことが大きな原動力になりました。ありがたいことに、本学での4年間はそのうちの一、二をまとめることとなった期間でもありました。「詩債」ではありませんが、幸いやり残したことも若干はあります。読みたいものを読んで少しは書く、そんな生活をいましばらく続けたいと思います。



文学部教授 特別専任 澤崎 久和

前任校より平成29(2017)年4月に移籍後、8年間本学にお世話になりました。以前に数年間兼任講師をしていた頃のキャンパスと比べ、渋谷キャンパスは全面再開発されて一新していましたが、神道精神が随所に感じられることに変わりはなく、伝統と格式の中で精神的にゆとりのある充実した教員生活を送ることができました。授業での学生との交流や複数言語による学内共同研究への参画などは特に有意義な時間でした。私は合わせて30年以上教壇に立ちましたが、その間日本におけるドイツ語教育は制度上も教育内容も変化が著しく、それに対応すべく教材の開発やドイツ語検定試験などに関わってきました。専門研究では音韻理論と音声実験を用いた成果を国内外に発信する機会に恵まれました。今後しばらくは学会関連の仕事や出版社とのやりとりが続きますが、それ以降は私の理想とする晴耕雨読の中で自分の研究を続けていく所存です。本学のますますの発展をお祈りします。



文学部教授 新倉 真矢子

在職した33年間に、大学進学率は26%から58%となった。担当した日本経済論の履修者はかつて400名余りだったが、今や40名余り。履修科目の細分化や前提科目制、問題関心の多様化が進んだ事によるのだろうか。講義で心がけたのは、日本経済の過去と現在を知り、将来を自分なりに構想する事。そして、自分らしい生き方や仕事選びに役立ててもらう事だった。それは、何のために大学へ来たのか?と学生たちへ問う格闘だった。同時に、学部改組やカリキュラム改革の30年でもあった。今や多数が進学するが、専門的な学びや職業の志向が明確な訳ではない。そうした学生が専門的基礎力のある教養人として育ち、自らの望む職業人生を歩んでいけるような学びを提供する事、しかも、選ばれる大学と評価してもらえる程の特徴を持つ事が求められる。深い感謝とともに、進学率6割かつ少子時代の新しい大学像を、本学の教職員の皆さんが創造して下さることを期待している。



経済学部教授 橋元 秀一

新しい時代の大学づくりへ期待

令和6年度 学長特別賞・学生部長賞が決定



国学院大学学生部は、令和6年度学長特別賞を2団体と4人に、学生部長賞を10団体と30人に贈ることを決定した。学生部長賞の表彰式は3月12日に渋谷キャンパスで行われ、根岸毅宏学生部長（経済学部教授）から賞状が授与された。写真。学長特別賞の表彰は3月23日の卒業式と合わせグランドプリンスホテル新高輪（東京都港区）で行われる。

学長特別賞

部門	受賞者（団体）	受賞理由
団体	陸上競技部	第36回出雲全日本大学選抜駅伝競走 優勝 第56回 全日本大学駅伝対校選手権大会 優勝
	ソフトテニス部（女子）	第44回全日本大学ソフトテニス王座決定戦 優勝 第78回全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会 第3位
個人	久保田 茜（日文4）	第79回全日本学生ソフトテニス選手権大会 女子ダブルス優勝
	原 千晴（中文4）	第79回全日本学生ソフトテニス選手権大会 女子ダブルス優勝
	廣田 友梨（外文4）	「国学院大学成績優秀者奨学制度」3年連続表彰（令和5・6年度成績最優秀者、令和4年度成績優秀者）
	仲澤 藍（哲4）	「国学院大学成績優秀者奨学制度」3年連続表彰（令和4・5年度成績最優秀者、令和6年度成績優秀者）

学生部長賞

部門	受賞者（団体）	受賞理由
団体	ドリル競技部	第24回全日本チアダンス選手権大会・第22回全日本学生チアダンス選手権大会 大学生編成Pom部門Small・Medium 第1位
	スポーツチャンバラ部	第31回スポーツチャンバラ全日本学生大会 女子団体第3位
	キックボクシング部	第93回全日本学生キックボクシング部選手権大会&UKFチャンピオントーナメント決勝戦 優勝
	モーターボート水上スキー部	第69回桂宮杯全日本学生水上スキー選手権大会男子ジャンプ団体 優勝
	アルティメット部（男子）	第35回全日本大学アルティメット選手権大会オープン部門優勝
	柔道部	2024年度全日本学生柔道体重別団体優勝大会 第3位
	森木会	創部20周年
	金春会	創部30周年
	硬式テニス部	創部60周年
	蹴球部	創部100周年
個人	細谷 伊織（史4）	第35回全日本大学アルティメット選手権大会 MVP
	伊藤 真央（法3）	2024年JAF関東ジムカーナ選手権JMRC関東オールスターシリーズBSC1クラス年間優勝 関東学生ジムカーナ新人戦2024ハイパワースタート新3年クラス優勝 2024年JAFカップオールジャパンジムカーナJMRC全国オールスタージムカーナin近畿 BSC1クラス第2位
	松山 晴信（史4）	第69回桂宮杯全日本学生水上スキー選手権大会男子ジャンプ個人 優勝
	鈴木 優太郎（健体4）	第69回桂宮杯全日本学生水上スキー選手権大会男子ジャンプ個人 第3位
	貴田 皓太（法4）	第93回全日本学生キックボクシング部選手権大会&UKFチャンピオントーナメント決勝戦 フライ級優勝
	木曾 慎太郎（経営3）	第93回全日本学生キックボクシング部選手権大会&UKFチャンピオントーナメント決勝戦 ミドル級優勝
	小林 耀（経2）	第93回全日本学生キックボクシング部選手権大会&UKFチャンピオントーナメント決勝戦 ウェルター級優勝・ベストバウト賞
	喜多 洸介（経3）	第93回全日本学生キックボクシング部選手権大会&UKFチャンピオントーナメント決勝戦 フェザー級優勝・最優秀選手賞

部門	受賞者（団体）	受賞理由
団体	飯田 真渚斗（健体3）	東都大学野球春季1部リーグ最優秀防御率賞
	當山 渚（経営3）	東都大学野球秋季1部リーグ最優秀防御率賞・敢闘賞
	伊東 光亮（経4）	東都大学野球秋季1部リーグバストナイン（遊撃手）
	羽田野 啓太（健体4）	グランプリ アッパーオーストリア2024 男子66kg優勝
	三好 優希（法1）	2024年スペインジュニア国際大会男子66kg級優勝
	中村 俊太（健体4）	2024年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 男子90kg級 第3位 2024年全日本選抜柔道体重別選手権大会 男子90kg級 第3位
	林 健成（健体2）	2024年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 男子81kg級 第2位
	大塚 遥人（神文4）	2024年度全日本学生柔道体重別団体優勝大会 優秀選手
	青木 瑠郁（健体3）	第27回日本学生ハーフマラソン選手権大会 優勝
	野中 恒亨（健体2）	第36回出雲全日本大学選抜駅伝競走4区区間賞 第56回 全日本大学駅伝対校選手権大会 5区区間賞
個人	上原 琉翔（健体3）	第36回出雲全日本大学選抜駅伝競走5区区間賞 第28回日本学生ハーフマラソン選手権大会 第3位
	平林 清澄（経営4）	第36回出雲全日本大学選抜駅伝競走6区区間賞
	山本 歩夢（健体4）	第56回 全日本大学駅伝対校選手権大会 6区区間賞・大会MVP
	高橋 拓己（法1）	第78回国民スポーツ大会 卓球競技成年男子第3位（大分県）
	寺澤 佑珠妃（日文3）	第79回全日本学生ソフトテニス選手権大会 女子ダブルス第3位
	相原 愛（中文1）	第79回全日本学生ソフトテニス選手権大会 女子ダブルス第3位
	長野 正武（初教1）	第31回スポーツチャンバラ全日本学生大会 新人男子二刀Advancedクラス優勝、新人男子グランドチャンピオン戦優勝
	清水 元葵（法4）	国家公務員採用総合職試験合格（消費者庁内定）
	清野 巴菜（経営4）	公認会計士試験合格
	十河 菜月（史4）	公認会計士試験合格
個人	恵比壽 拓海（経営4）	公認会計士試験合格
	宮嶋 優介（経3）	公認会計士試験合格

法学会懸賞論文 6人が受賞



令和6年度の法学会懸賞論文表彰式が3月3日、渋谷キャンパスで行われた。この懸賞論文は法律・行政・政治に関するテーマで法学部学生が執筆した論文が対象。今回は応募15本（法律系6本、政治系9本）から、法学部教員による厳正な審査の結果、最優秀賞1本、優秀賞2本、佳作3本が選ばれた。表彰式では荻田真司法学部長（教授）が受賞者に賞状と副賞を手渡した。受賞者は以下の通り。（敬称略）

◆最優秀賞＝▷宮井恵名（法3）◆優秀賞＝▷川本和宏（法2）▷茅野静秀（法2）◆佳作＝▷石嶋心愛（法4）▷佐藤快音（法3）▷高谷征治（法4）

経済学会卒業論文・卒業レポート表彰 11人が受賞



令和6年度の経済学会による卒業論文・卒業レポート表彰制度の表彰式が3月10日に、渋谷キャンパスで行われた。経済学部では昨年度より卒業論文・卒業レポートの提出が必修となった。この表彰制度はゼミ活動等の集大成となる卒業論文・卒業レポートへの取り組みをたたえ、学生の学ぶ意欲の向上を目的としている。指導教員が優秀な卒業論文・卒業レポートを推薦し、11本が推薦論文として選ばれた。

表彰式では中馬祥子・経済学部副学部長（教授）が、受賞者に賞状と副賞を手渡した。受賞者は以下の通り。（敬称略）

◆受賞者＝▷荒井陽奈葵（経4）▷内野遥（経4）▷小倉陽大（経4）▷小堀恵実（経営4）▷西條彰紘（経営4）▷渋谷梨夏（経営4）▷成瀬祥子（経営4）▷松谷直樹（経4）▷吉澤諒（経4）▷渡辺新菜（経4）

※1人匿名希望のため氏名非公開

安蘇谷 正彦・元学長 逝去

国学院大学元学長の安蘇谷正彦氏が2月7日に逝去。84歳。

安蘇谷氏は昭和15年生まれ。38年国学院大学文学部神道学科卒業、40年同大学院文学研究科修士課程修了、45年同博士課程単位取得退学。その後、同日本文化研究所研究員を経て、51年同文学部専任講師、53年同助教授、62年同教授。平成14年同神道文化学部教授、同学部長。16年から23年まで学長。23年定年により退職。同年名誉教授。

専門は神道神学。編著書に『神道と日本文化』（戎光祥出版）『神道の生死観－神道思想と「死」の問題－』（ペリかん社）などがある。

成人加冠式を 5年ぶりに執行

神道文化学部が主催する令和6年度成人加冠式が2月22日、渋谷キャンパス120周年記念2号館祭祀教室で執り行われた。成人加冠式は、奈良・平安時代の成人儀式である加冠式に由来する行事。本学では平成20（2008）年より実施されてきたが、コロナ禍の影響で中止が続いていた。今年度、5年ぶりに執行され、午前・午後の2部制で行われた。対象は平成14年4月2日～翌年4月1日生まれと、平成16年4月2日～翌年4月1日生まれの学生で、38人が新成人として参加した。

新成人たちは、それぞれ衣冠や狩衣、正服や斎服をまとい、厳肅な雰囲気の中で式に臨んだ。午前の部は黒崎浩行・神道文化学部長（教授）写真右端が、午後の部は同学部の松本久史教授、遠藤潤教授、大道晴香准教授が加わり加冠役を務めた。開式直後の「加冠の儀」では、新成人一人一人に冠や釵子、額当が授けられた。その後、黒崎学部長による祝辞、新成人代表の答辞に続き、神殿遥拝が行われた。続いて有志学生による舞や雅楽が披露され、最後に黒崎学部長が新成人代表へ記念品を贈呈し、祝福した。

加冠を受けた学生は「入学前から参加を希望していた成人加冠式に無事出席でき、大変うれしく思う。これからは成人としての自覚を持ち精進していきたい」と決意を語った。



大学院博士後期課程 10人が課程博士号

大学院博士後期課程を修了する10人に対して、博士号が授与される。対象者氏名、学位、論文題目、主査、副査は別表の通り。

(敬称略)

氏名	学位	論文題目	主査	副査
高 夢雨	博士 (神道学)	古代東アジアから見た大嘗祭	笹生衛教授	江川式部准教授 岡田莊司本学名誉教授
高倉 明樹子	博士 (文学)	源氏物語詠歌表現論	竹内正彦教授	野中哲照教授 針本正行本学学長 室城秀之白百合女子大学名誉教授
中村 明裕	博士 (文学)	荷田春満と日本語音調史の研究	諸星美智直教授	三井はるみ教授 久野マリ子本学名誉教授 上野善道東京大学名誉教授
藤原 慧悟	博士 (文学)	中古語疑問文の研究	吉田永弘教授	小田勝教授 小柳智一大学院兼任講師
矢嶋 正幸	博士 (民俗学)	関東地方における太々神楽の歴史民俗学的研究	小川直之客員教授	大石泰夫教授 神田より子敬和学園大学名誉教授
丁 文静	博士 (文学)	現代日本語における格助詞性複合辞に関する研究	諸星美智直教授	菊地康人教授 小田勝教授
上出 大河	博士 (文学)	植民地期台湾における日本語の研究	諸星美智直教授	菊地康人教授 伊藤孝行大学院兼任講師
村上 瑞木	博士 (歴史学)	近世近代移行期の社会変容と 水戸藩奥向女性	吉岡孝教授	岩橋清美教授 箱石大東京大学史料編纂所教授
荒川 隆史	博士 (歴史学)	縄文時代晩期における集落形成とクリ利用 ―新潟県青田遺跡を中心として―	谷口康浩教授	青木敬教授 設楽博己大学院兼任講師 石川日出志明治大学教授
小国 七慧	博士 (歴史学)	文学館機能論 ―県立文学館の事業分析を中心に―	内川隆志教授	山本哲也教授 池田榮史教授

博士号の授与

◎大学院（9月修了含む）◆
博士課程前期修了◇文学研究
科58人▽神道学・宗教学専攻
12人▽文学専攻15人▽史学専
攻31人◇法学研究科▽法律学
専攻7人◇経済学研究科▽経
済学専攻6人◆博士課程後期
修了◇文学研究科10人▽神道
学・宗教学専攻1人▽文学専
攻6人▽史学専攻3人◇法学
研究科▽法律学専攻0人◇経
済学研究科▽経済学専攻0人
◆博士課程後期所定単位修得
退学◇文学研究科8人▽神道
学・宗教学専攻2人▽文学専

攻5人▽史学専攻1人◇法学
研究科▽法律学専攻0人◇経
済学研究科▽経済学専攻0人
（大学院合計89人）
◎学部（9月卒業含む）◆文学
部766人▽哲学科77人▽史
学科214人▽日本文学科2
80人▽中国文学科61人▽外
国語文化学科134人◆経済
学部517人▽経済学科26
1人▽経済ネットワークキン
グ学科2人▽経営学科254人
◆法学部▽法律学科468人
▼法律専攻390人（3年次
卒業1人を含む）▼法律専門

職専攻36人（同3人を含む）
▼政治専攻42人◆神道文化学
部▽神道文化学科192人◆
人間開発学部340人▽初等
教育学科109人▽健康体育
学科136人▽子ども支援学
科95人
（学部合計2283人）
◎専攻科▽神道学専攻科神道
学専攻18人
（専攻科合計18人）
◎別科▽神道専修1類0人▽
神道専修Ⅱ類5人
〔総計2306人〕

所属別133期卒業生・修了生数（3月12日時点）

新卒業・修了生の資格取得人数（3月12日時点）

令和6年度卒業・修了生
（9月卒業・修了含む）のう
ち、各種資格を取得した人数
は次の通り。

◆神職▽明階検定合格・明階
授与19人（学部）▽明階検定合
格・正階授与110人（専攻
科・学部）▽正階検定合格・
正階授与5人（別科神道専修
Ⅱ類）◆博物館学芸員103
人（学部）◆図書館司書77人

（学部）◆学校図書館司書教諭
20人（学部）◆教職▽高校一
種352人（学部）▽中学一
種268人（学部）▽小学校
一種117人（学部）▽幼稚
園教諭一種101人（学部）
▽特別支援学校31人（学部）
▽保育士77人（学部）▽高校
専修14人（大学院）▽中学専
修13人（大学院）

若木育成会からの表彰

若木育成会（郡司掛司会
長）は、令和6年度卒業・修
了生で優秀な成績を修めた次
の学生を表彰する。（敬称略）
※は3年次卒業
◆文学部Ⅱ廣田友梨（外文）、
杉山駿斗（日文）、作増唱太
（同）、横尾綾音（史）◆経済
学部Ⅱ村松夏実（経営）、元
木陽斗（同）◆法学部Ⅱ清水

元葵、古橋良祐、上條綾華、
角田あゆみ、奥蘭果凜※、高
木秋奈※◆神道文化学部Ⅱ笹
沼彩乃、星風◆人間開発学部
Ⅱ本庄杏佳音（初教）、遠矢
梨乃（同）◆専攻科神道学専
攻Ⅱ金子雅弘、岩下忠勢◆別
科神道専修Ⅱ日高聖大（別神
Ⅱ）、佐々木純（同）

神社界からの表彰

神職課程に学び、成績優秀
な令和6年度卒業・修了生に
対して神社界から次の各賞が
贈られた。（敬称略）
◆神宮大宮司賞▽金子雅弘
（神専攻）▽星風（神文）▽笹
沼彩乃（神文）
◆神社本庁統理賞▽岩下忠勢

インフォダイジェスト

校 友 課

◎住所変更したら連絡を

ホームカミングデー等のご案内をさせていただきます。卒業後に住所・氏名・電話番号・メールアドレス・勤務先などに変更があった場合は、国学院大学HP（卒業生⇒住所変更などのご連絡）またはメール・電話・はがき・FAXで校友課に連絡をお願いいたします。

◎各種調査・個人情報について

本学が電話・郵便物などで院友の皆さまの個人情報について調査する場合は、「渋谷キャンパス所在地および国学院大学校友課名」で実施します。本学と一般財団法人国学院大学院友会（以下、院友会）は院友の皆さまの個人情報を共同で利用させていただいており、各種発送物が届け出住所に配達できない場合は校友課および院友会から電話でお問い合わせする場合がございます。郵便物・電話などで不審な点がございましたら回答せず、校友課までお問い合わせください。

☎校友課（☎03・5466・0131、☎03・5466・0185、✉soumu-kouyu@kokugakuin.ac.jp）

学 生 生 活 課

◎日本学生支援機構奨学金を返還する方へ

日本学生支援機構（JASSO）奨学金の貸与者は、次の要領で返還を円滑に行ってください。

①住所・氏名・勤務先・連帯保証人などに変更があった場合は、速やかにJASSOへ連絡してください。その際は奨学生番号が必要となります。「返還確認票」「返還のてびき」は返還が完了するまで大切に保管してください。

②返還困難な状況が生じた場合は、減額返還や返還期限猶予を願い出ることができますので直接JASSOに相談してください。

※上記の手続きは、スカラネット・パーソナルで出願可能です。問い合わせは下記相談センターへ

☎日本学生支援機構奨学金相談センター

（☎0570・666・301〈ナビダイヤル〉）

就職担当3課（キャリアサポート課・教職センター・たまプラーザ事務課）

◎卒業後にもご協力を、進路未定者は相談を

新卒業生の皆さんには、進路の別を問わず在学生の就職活動支援（OBOG訪問など）にご協力をお願いします。また、進路未決定の方には継続して相談に応じ、教職センターでは教員求人卒業後も紹介しています。お気軽にご利用ください。

☎キャリアサポート課（☎03・5466・0151）

教職センター（☎03・5466・0152）

たまプラーザ事務課（☎045・904・7707）

教 務 課

◎証明書の発行方法

各種証明書の発行方法は、①学内の証明書自動発行機（在学当時の学籍番号とパスワードを使用）②郵送③窓口④コンビニエンスストア発行の4通りです。新卒業生向けの証明書発行可能期間・方法等の詳細を、大学HPに掲載しておりますので、ご確認ください。（在学生⇒証明書発行）

※休業期間や行事、機器メンテナンスなどで発行・発送に時間を要する場合がありますので、余裕をもって申請をお願いします

※申請時には身分証明書（健康保険証や運転免許証など）が必要となります。氏名などに変更があった場合は申請時に戸籍抄本（写）を添えてください

料①～③は1通500円（郵送発行は別途送料）

④は1通600円（別途印刷代1枚60円）

☎教務課（☎03・5466・0135）

たまプラーザ事務課（☎045・904・7721）

エクステンションセンター

◎オープンカレッジを開講しています

エクステンションセンターでは、生涯学習の場として、オープンカレッジを開講しております。令和7年度は、神道・文学・歴史など幅広い分野を全講座対面で開講いたします。

新卒業生の皆様には、入会金5,000円を3,000円とす

る割引制度があり、オープンカレッジ会員には、オンライン公開講座を含むセンター主催の各種講座をご案内いたします。

この機会に、ぜひパンフレットをご請求ください。

☎エクステンションセンター（企画課内）（☎03・5466・0270）✉jigy@kokugakuin.ac.jp

本学HP（<https://www.kokugakuin.ac.jp/general/eventlist/p1>）

図 書 館

◎卒業後も図書館を利用できます

卒業後も渋谷・たまプラーザ両キャンパスの図書館を利用（館内での閲覧、館外貸出、文献複写）できます。貸出冊数は和・洋書ともに5冊、日数は14日間です。遠方にお住まいの方で文献複写が必要な場合には、文書による申し込みも可能です。

図書館カウンターで申し込むと、翌年4月末まで有効の「図書館利用者カード」（両館で使用可）を発行します。

☎図書館事務課（☎03・5466・0159）

※カード発行には、運転免許証など現住所を確認できる身分証明書が必要です

人 事 課

◎格安料金で自然を満喫 厚生寮をご利用ください

国学院大学では、卒業生に対して厚生寮を格安料金で開放しています。

▶ 叢隠寮（神奈川 県箱根町）



叢隠寮は故折口信夫（釈道空）博士の別荘であった叢隠居を昭和33（1958）年に大学が譲り受け、これを保存するとともに宿泊施設を増築しました。寮には良質な温泉もあり、四季折々に変化する自然の中にある快適な保養所となっています＝写真。

料1泊2食付き9,000円（入湯税含む）

※チェックイン15時、チェックアウト10時

☎利用日の1カ月前から人事課（☎03・5466・0105）で受け付けます。詳細は本学HPで案内しています。

▶ 蓼科寮（長野県立科町）

蓼科高原にあり、夏は近くにある御泉水自然園の散策、冬はスキーと四季折々の自然を満喫できます。また、敷地内にはバーベキュー棟もあり、多人数で楽しめます。

料1泊2食付き4,000円（冬期は暖房費を別途加算）

※チェックイン15時、チェックアウト10時

☎利用日の1カ月前から人事課（☎03・5466・0105）で受け付けます。詳細は本学HPで案内しています。

総 務 課

◎広くご寄付を募っています

学校法人国学院大学では、私学としての公共性と独自性ある教育研究体制を確立するため、広くご寄付を募っています。本学に対するご寄付は、専用紙による申し込みとインターネット上でクレジットカード決済による申し込みが可能です。

募集するご寄付の種類は、「学生・生徒等の奨学基金」「学生・生徒等の活動支援」などに加え、学生の課外活動を支援するために役立てられる「課外活動支援（スポーツ強化部会など）」や「メッセージ募金」を設けています。「メッセージ募金」は、スポーツ活動や課外活動などに熱心に取り組んでいる在学生や本学に向け、本学HPからメッセージを投稿してもらう仕組みです。ワンコイン（500円）からご寄付が可能で、メッセージはそのままHPに公開されます（匿名可）。ぜひ後輩にエールをお寄せください。

各種募金に関する情報は、本学HP（<https://kifu.kokugakuin.ac.jp/>）で閲覧できます。

◎税制上の優遇措置

本学法人への指定寄付金は、次の通り税制の優遇措置を受けることができます。

個人＝個人所得税については、特定公益増進法人への寄付金としての「所得控除」、または一定要件を満たした学校法人などへの寄付金としての「税

額控除」のうち、いずれかの税制を寄付者が選択し、確定申告を行うことで所得税が減免されます。なお、多くの場合「税額控除」を選択すると減免が大きくなります。個人住民税については、お住まいの自治体が条例により本学法人への寄付を税額控除の対象と指定している場合に限り、確定申告を行うことで住民税が減免されます。

法人＝特定公益増進法人に対する寄付金として扱われ、所定の計算式に基づく限度額まで該当事業年度の損金に算入することができます。寄付金の申し込みと納付が確認できましたら、本学法人発行の領収書と文部科学省発行の証明書をお送りしますので、確定申告などの税務手続きを行ってください。

◎受配者指定寄付金

日本私立学校振興・共済事業団が取り扱う制度で、この制度を利用して私立学校へ寄付をした企業等法人は、法人税法上、支出した寄付金の全額を損金の額に算入することが認められています。

◎遺贈による寄付制度

「遺贈による寄付」とは、院友・在学生の父母・教職員・一般篤志家が保有されている資産の一部を、将来遺贈の形で寄付していただき、本学法人の教育研究活動のより一層の充実発展のために支援をいただく制度です。

本学法人では、この制度を実施するにあたり、三井住友信託銀行・三菱UFJ信託銀行と協定を結んでいます。本制度の利用を希望される場合は、総務課または最寄りの協定金融機関までご一報ください。

☎総務課寄付金担当（☎03・5466・0111）

入 学 課

◎院友子弟等特別選考のご案内

国学院大学では、院友の子弟らを対象とした「院友子弟等特別選考」を実施しています。

本選考は、本学の学部、大学院、専攻科、別科などを卒業・修了された方の2親等以内の親族（配偶者、姻族を含む）であることが出願資格の一つとなります。その他の出願資格の詳細は、毎年5月下旬ごろに発行する「入学案内」に掲載しています。本学HP（<https://www.kokugakuin.ac.jp/admission/documentrequest>）からご請求ください。本学への進学を希望する親族の方がいらっしゃいましたら、本選考をご案内ください。

☎入学課（☎03・5466・0141）

国 学 院 大 学 生 協

◎卒業アルバムの購入受け付け中

大学生協では現在、卒業アルバムの購入を受け付け中です。先にお送りした郵便振替用紙（渋谷・たまプラーザ店舗でも配布中）か郵便局備え付けの郵便振替用紙をご利用いただき、通信欄に、学部・学科・学籍番号・郵送先住所を明記の上、郵便局の窓口でお振り込みください。5月9日(金)までお振り込みを受け付け、11月ごろの発送になります。

※ご父母の方などが購入された場合、「卒業生本人が写っていない」と連絡が寄せられることがあります。写真撮影をされているか確認した上でお申し込みください

料1万3,500円（消費税・送料込み）

☎振込先（加入者名）・口座番号＝国学院大学生生活協同組合・00150-6-501528

◎オリジナルスイーツや人気グッズはいかが？

大学生協では、オリジナルスイーツの「国学院どらやき」（1,550円）とコロパンとの企画による「国学院クッキー」（19枚入1,380円、33枚入2,580円）や、ぬいぐるみをはじめとした大学マスコット「こくびよん」グッズ、Tシャツやキャップなどの本学オリジナルグッズを販売しています。配送も承っています。



左から、国学院どらやき、「こくびよん」グッズ、国学院クッキー

☎国学院大学生生活協同組合（☎03・5466・0169または<https://www.kgucoop.or.jp>）